

佳作

また走りたいなマラソン

かまだ
鎌田 桃子

秋田市立仁井田小学校一年（秋田県）

わたしは、今まで三回マラソンにさんかしました。中でも一番心にのこっているのは、鳥海高原マラソンです。なぜならじゅんいが十位だったからです。

その日は、あつかったです。前の日の夜から行って西目というところで、一ぱくとまりました。ドキドキしませんでした。家と同じくらいよくねわれました。

大会当日は、七時くらいにおきました。目ざまし時計があつたのに、自ぜんにおきることができました。でも気もちは少しおもかったです。

なぜなら十位になれるかが心ばいだったからです。前の大会では、じゅんいがわかりませんでした。じゅんいは六位までひょうしようです。早い人ばかりでした。一位の人はくるしそうな顔をしていませんでした。わたしは、おでこから目のよこをとおって首や、せなかにあせがながれていました。それでも、十位には、なれませんでした。ざんねんでした。

この鳥海高原マラソンでは、さいしょは、リラックスして走ることができました。おちつく気もちで、前の人をこしました。

後ろを見ると、こされそうだったのでわたしは、前だけをむいて

走りました。お姉ちゃんのこと気がになりましたがふりむきませんでした。

ゴールすん前、男の子と女の子がさい後のけっせんをしていました。わたしは、その人たちよりも、もっと早く走ることができたので、さいごに二人をこすことができました。ゴールにとびんだときは、

「ハァーハァーハァ。」

と声になっていました。空気がたりなくて、のどがつまったかんじでした。足のうらからのどまでにあるぜんぶの力をふりしぼりました。

もらったばんごうふだを見ると自分は、十位でした。今までのマラソン大会では、さい高記ろくでした。びっくりしました。ゆめがかないました。つぎのゆめは、かならず一位です。